

(概要版)

教師・児童・保護者が共通の目的意識をもって 改善を進める学年経営

一取組の目的と実践の内容・成果が明らかになる見える化システムの開発と活用を通して一

長期研修員 神保 康紀

学年経営を充実させるには

教育基本法第13条

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

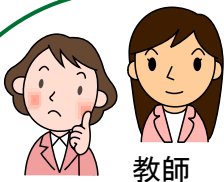
保護者の理解や協力を十分得て、
連携を図ることが必要！

学習指導要領解説総則編

他の教師の助言や協力を得て、指導技術の向上、指導方法や指導体制などの工夫改善を図る。

学年主任を中心とした学年
の組織的な取組が必要！

ところが…現状は、様々な課題があります。



教師



学年主任

学年目標や経営方針に向かう具体的な計画や先生方の共通理解が不十分だな。

私は何をしたらいいの？
(自らの課題に気付にくい)

児童

保護者



学校評価はあるけれど、課題改善のための取組がよく見えないな。

これは、**学年としての取組の意図が十分理解されていない**ことが原因ではないでしょうか。そこで…

教師だけでなく、児童自身と保護者も、実態と課題、改善のための実践のねらい・内容・成果などを共通理解することで、三者が同じ方向を向いて学年目標の達成を図ることができるシステムが必要だと考えました。

見える化システムがあれば…



教師にとって

学年目標に向かって課題改善の方向性を定め、学年で共通理解の基に実践に取り組むことができると考えました。



児童にとって

課題に気付き、めあてをもって学習に取り組み、改善に向けて意識や実践力が高まると考えました。

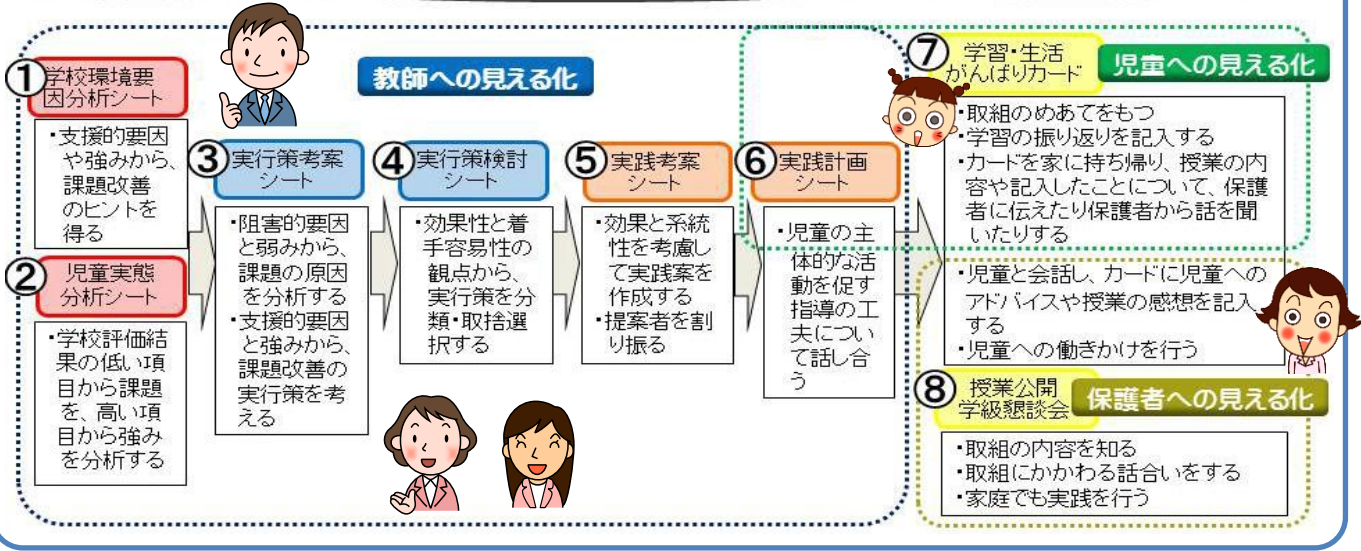


保護者にとって

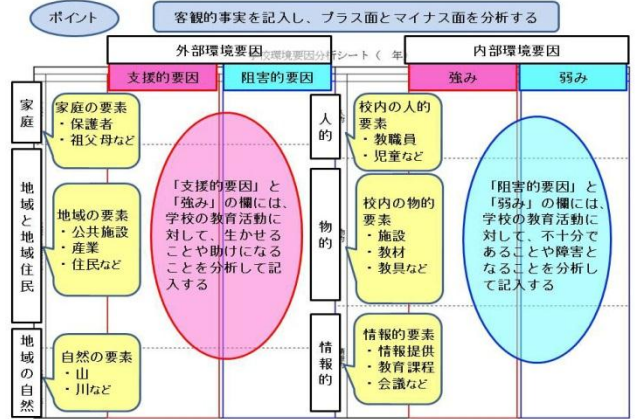
取組について理解することができ、改善に向けて意識が高まり、主体的な協力をすることができると思えました。

教師・児童・保護者に取組の目的と実践の内容・成果が明らかになる 見える化システムを開発しました！

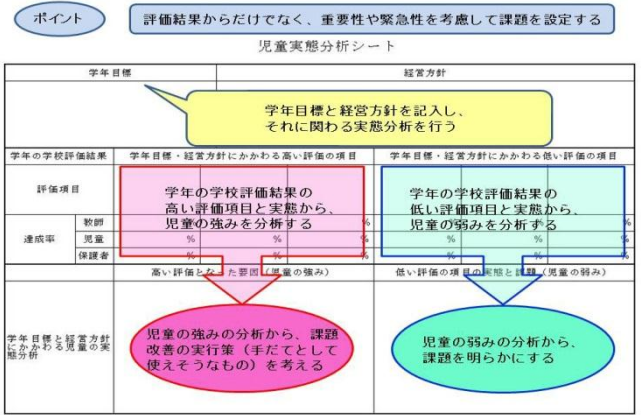
見える化システムの流れ



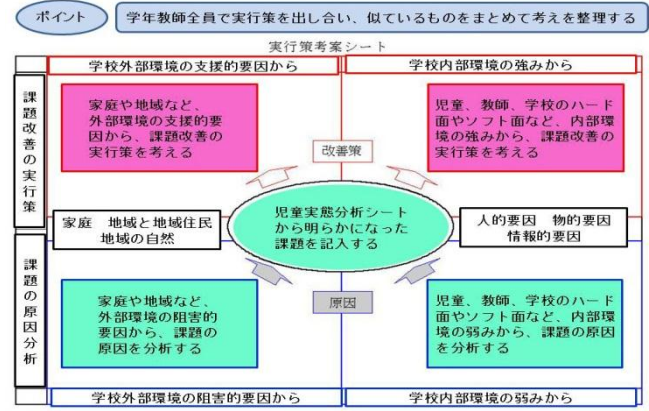
① 学校環境要因分析シート



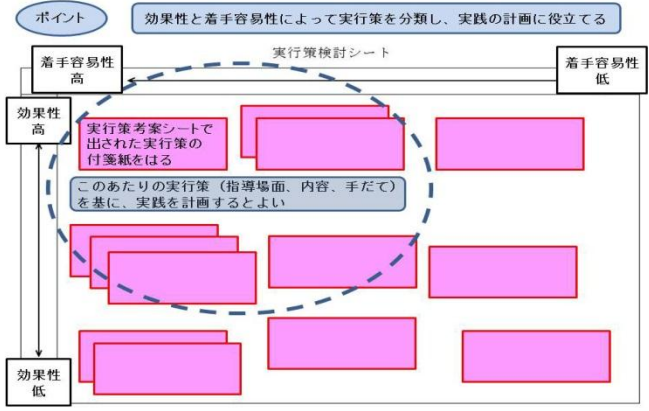
② 児童実態分析シート



③ 実行策考案シート



④ 実行策検討シート



教師への見える化

① 重点目標「相手の気持ちを考えることができるようにする」の設定
 ②
 ③ 外部環境の支援的要因や内部環境の強みから**実行策**を出し合い、課題改善の方向性を探った

④
 ○人間関係づくりのための楽しい活動
 ○よさを認めたり生かしたりする活動
 ○人間関係づくりのスキル
 ○道徳の授業の充実という**実行策の導入決定**

⑤
 ①学活「友だちをさそおう」
 ②道徳「くりのみ」
 ③学活「ことばのプレゼント」を計画

⑥ 課題意識のもたせ方やポイントとなる発問、学習形態など、**指導の工夫**についての話し合い

学年として方向性を定めた組織的な取組の計画ができた！

⑤ 実践考案シート

ポイント 学年主任が実践の具体案を提案し、学年会で検討する

実行策考案シート

| 今学期の重点目標 | No. 1 | No. 2 |
|-------------------|--------------|-------|
| 実行策 | 使用する実行策を記入する | 実行策 |
| 教科・単元・題材等 | | 教科 |
| 具体的な達成目標 | | |
| 実践の具体的な内容と手だて | | |
| 実践を生かした具体的な内容を考える | | |
| 提案者 | A先生 | 提案者 |

実践の内容と教師の個性、経験等によって学年主任が提案者を割り振る

⑥ 実践計画シート

提案者の計画を基に、指導の工夫について話し合う

実践計画シート

| 今学期の重点目標 | 実践 題 | 実践 日 | 実践 年 月 日 () |
|--------------------------------------|------|------|--------------|
| 具体的な達成目標 | | | |
| 教科・単元・題材等 | | | |
| 準備及び留意事項 | | | |
| 実践の流れ及び実行策を基にした具体的な手だて | | | |
| 実践の具体的な計画を、担当のA先生が作成し、後日学年会に提案し、検討する | | | |
| 評価計画(評価方法) | | | |

実態を分析して課題や実行策を考え実践計画を立てるといことをしっかり行ったので、**どの実践も目的をはっきりもって行うことができました。**

担任からの意見



児童への見える化

友達を誘う**役割演技**を取り入れる工夫
 誘う時の表情、話し方、動き方について、「**近くで・目を見て・笑顔で・はっきり**」という具体的な四つのポイントに、TTで気付かせた。



担任からの意見

役割演技を行う際、TTで例示した**誘い方の四つのポイント**がとても役に立っていました。

さそわれた時はとてもうれしかったです。今日のお昼休みに、だれかをさそおうという気持ちになりました。



近くでえがおで目を見てははっきり言えてよかったです。あいての気持ちも考えないとだめだと思いました。

チャレンジ週間には、いつもは仲のいい子としか遊ばない児童が色々な友達を誘ったり、みんなで誘い合って学級の児童全員が外に遊びに行ったりするなど、主体的なかかわりをする様子が見られた。

相手の気持ちを考えようとする意識が高まり、行動する姿が見られるようになった！

⑦ 学習・生活がんばりカード

○今日の授業の内容
 学活「友だちをさそおう」

○ねらい
 相手の気持ちを考えて色々な友達を誘うことの大切さを理解し、一緒に遊んだり同じグループになったりするために、友達に自分から声をかけることができる。

○内容
 ・みんなが遊んでいる時に一人ぼっちでいる子の気持ちを考え、友達を誘うことの大切さを理解するために、教師の演技を見る。
 ・友達の誘い方を考え、相手を誘う演習をグループで行う。
 ・誘う時は、相手に近づいて目を見て笑顔ではっきり聞こえるように誘う。

○チャレンジ週間について
 ・休み時間には、男女混合、他のクラスの子も入れる、5人以上など、指定されたグループを作ったり、自主的に誘い合ったりして遊ぶ。授業や給食の時間にも、誘い合ってグループを作る活動を意図的に入れる。
 ・今日から1週間、この取組を続け、できたことや感想をチャレンジカード「友だちをさそおう」に記録する。

学活「友だちをさそおう」の内容

児童の振り返り

家庭での実践

保護者は、相手の気持ちを考えて行動する意味や大切さについて、**家庭でもより深く考えさせる機会をつくった。**



学習・生活がんばりカードの保護者からのアドバイスは、大変効果的でした。保護者が**この取組、授業に対してとても好意的**でした。

〇きょうのべんきょうについて
さそった時やさそわれた時の気持ちはどうでしたか。

きょう、みんなでグループをつくりました。つきに友だちがつまらなそうにしていたら、いっしょにあそぼうと言ってみたくです。きょうは、となりの子と前の子でやりました。とてもべんきょうになりました。またやってみたくです。それに、さそわれると、とてもいい気もちになりました。ほんばんもやってみたくです。

〇おうちの人から
(児童へのアドバイスや、授業について感じたことを書いてください。)

自分が友達から誘われると「いい気持ち」になるということから、友達も自分が誘うことによって「いい気持ち」になると気が付いたことが良かったと思います。また、私が息子にこんな質問をしました。「どんなときに友達に誘ってもらいたいか?」
答えは、「みんなと遊びたいけれど、誰からも誘われずに、仲間に入りたくないあと思っている時。」でした。
そこで、「みんなと遊ぶ時は、他に一人でつまらなそうにしている子や、遊びたそうにしている子に声をかけてみよう。たとえその子が、その時に仲間に入らなかったとしても、声をかけられたことは、きつとうれしいはずだよ。」と話しました。

学級懇談会では、我が子に向けて言葉のプレゼントカードを書き、グループで話し合う活動を行った。**家庭でも児童に言葉のプレゼントを実践した。**右の保護者の感想から、実践の意味が伝わり、**児童に働きかけようとする意識が高まった**ことが分かる。

保護者が改善に向けて意識を高め、主体的な協力をすることができた!

・欠点を批判することより、長所を言葉に出して伝えることが大切だと思いました。大人にとっても大切な授業でした。

・私からのメッセージの他に、家族がそれぞれ思ういいところを話しました。とてもうれしそうに聞いていました。

「ことばのプレゼント」を実践した保護者の反応

まとめ

成果

- ・学年経営に見える化システムを取り入れ、教師・児童・保護者が共通の目的意識をもてたことで、具体的な改善の工夫を行うことができた。
- ・教師は、児童の力を育てる場や指導の内容、手だてなど、課題改善の実行策について話し合ったことにより、課題改善の方向性を絞っていくことができた。
- ・児童には、課題のたせ方や教材、手だてなどを工夫して実践したことにより、課題意識をもたせて改善への意識を高め、実践力を身に付けさせることができた。
- ・保護者には、取組の目的や内容・成果について、学校と同じ方向で児童に働きかけようとする意識を高めることができた。

課題

- ・見える化システムを随時導入し、学年会で児童の変容を把握しながら実践していくことで、目標の達成を図ることができると考える。成果の見えるサイクルにするには、適切な目標と課題改善にかかる期間の設定が大切である。
- ・学年の取組の目的や内容について学校全体で共有化を図り、系統的・継続的な改善となるように、学校全体として課題改善を図っていくことが必要である。